

科目の種類	必修	科目名	古典講読	学 年	3	単位数	2
コ ー ス	スポーツコース						
教 科 書	教育出版「古典名文選 古典講読」						
副 教 材	古語辞典 国語便覧 対訳古典文法						
科目のねらい <p>1年次の古典学習をもとに、さらに古典に親しみ、古文と漢文を読み味わいながら批評・鑑賞する能力を養うことをねらいとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典を学ぶことを通して日本文化について考え、言語感覚を磨きながら言語文化に対する関心を深めて生涯学習の基礎を培い、人生を豊かにする態度を身につけます。 							
授業の進め方 <p>古文を、年間学習指導計画にしたがってバランスよく学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文の読解に必要な言語事項の理解を深めます。 ・文章に表れた思想や感情を読み取り、古人の考え方や生き方について考えます。 ・作品に描かれた内容や、作品を支える世界について考えたり調べたりします。 ・調べたことをもとにしたスピーチ、プレゼンテーション、発表などに取り組みます。 ・以上の内容について、主として講義を通して学習しますが、課題に応じては、グループ学習や調べ学習・レポート作成なども実施する予定です。 							
より良く学習を進めるためのアドバイス <p>繰り返し音読し、古文に親しみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語総合」での古典学習をさらに伸長するための講座です。そのため、「国語総合」を履修し理解修得していることが前提となります。 							
評価方法 <p>○テストについて</p> <p>評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査時には、学習内容を中心とした考査をそれぞれ百点満点で行います。 ・ <hr/> <p>○平常点について</p>							

小テストは、重要古語に関するものを適宜実施するほか、音読や暗誦のテストも実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算します。

- グループ学習による発表学習については、担当教員の評価のほか、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用します。

学期	学 習 単 元	学 習 の 内 容 と ね ら い
前 期	○『徒然草』 ・つれづれなるままに ・ある者、小野道風の書ける	○・随筆文学の特色について考えます。 ・作者兼好法師について学びます。 ・音読読解を通して、古文の語感を確認します。 ・作者は話の裏にあるどのような人間の行動に興味を持ったのか考えます。
	○『伊勢物語』 ・梓弓	○・歌物語の特色について学びます。 ・重要古語の意味を学び、漢字の読みを確認します。 ・和歌の技巧について学び、心情を理解します。 ・登場人物の心情を考えながら、現代語訳します。 ・指示語の指す内容を把握します。
第 1 回 定 期 考 査		
	○ [説話] ・『十訓抄』 ・ 鬼の笛	○・説話文学の特色について調べます。 ・音読し、全文を現代語訳します。 ・主題は何かを考え、内容を理解します。 ・笛の不思議・登場人物の心情について考えます。
	○『伊勢物語』 ・筒井筒	○・重要古語を確認し、本文を音読・現代語訳します。 ・和歌の技巧について学び、味わい鑑賞します。 ・筋の展開を把握し、登場人物の言動と考えを理解します。 ・出来事とそれに対する登場人物の反応をまとめます。
第 2 回 定 期 考 査		
後 期	○『提中納言物語』 ・虫愛づる姫君	○・音読し、全文を現代語訳します。 ・内容を確認し、作者の観察眼の有り様や、登場人物の気持ちについて考えます。 ・作者の主張を整理し、内容をまとめます。
	○『枕草子』 ・雪のいと高う降りたるを	○・「枕草子」と作者清少納言について学びます。 ・音読し、全文を現代語訳します。 ・中宮定子の発問の意図を考えます。 ・中宮定子に対する作者の意図を考えます。 ・言語遊戯について考えます。
第 3 回 定 期 考 査		
	・中納言参りたまひて うつくしきもの	・それぞれの会話の発言者を確認します。 ・作者清少納言の、その場に即した機転の利いた会話について考えます。 ・清少納言が取り上げた事物・自然・人間とそれらに対する評価について考えます。
	第 4 回 定 期 考 査	
第 5 回 定 期 考 査		